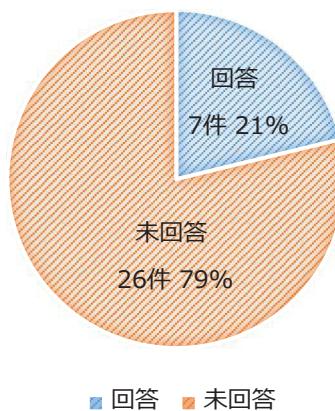


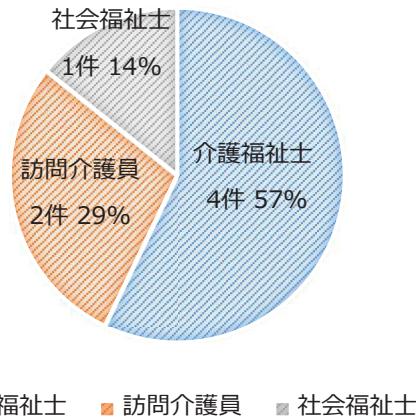
【5訪問介護事業所】

回答者について

■調査数及び回答率



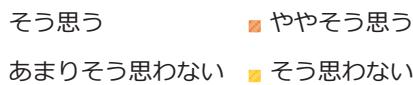
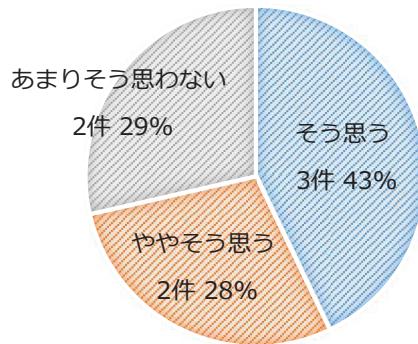
■職種



■ここ3年程度の多職種や他機関連携の図りやすさ

ここ3年程度の多職種や他機関連携が図りやすくなりましたがの問い合わせに対し、「そう思う」「ややそう思う」が71%となっている。理由としては、

- ・研修等でも一緒にになり、共通難題も出て身近な物になっている。
- ・居宅療養管理指導や訪問診療等との連携が図りやすくなつた。
- ・訪問看護を窓口にして医療機関からの指示をもらう体制がだいぶ整つた。
- ・ICT活用が進んでいる。
- ・経験年数が多く、電話や訪問、サービス担当者会議やセンターファレンスの参加等により連携は取れている。しかし、コロナ禍前は、多職種合同の研修(グループワーク)にも参加していたが、リモート研修が多くなり、関係づくりとしては難しさを感じている。と回答している。



「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由としては、

- ・担当者が変わり、話すことがなくなつた。
- ・コロナ感染症の影響で会議等の開催が少なくなつた。と回答している。

4つの場面について

■「日常の療養支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・認知症の方の食事提供、服薬の確認、目薬の確認が状況によって困難な時があるため、認知症の方の家族、ケアマネ、訪看、訪問等、皆で話し合いを行う。
- ・受診して欲しくてもなかなか受診されないため、医療との連携が必要。
- ・どの程度の症状で訪問看護などの医療機関に問い合わせるべきか迷うことがあるため、介護事業所による個別の病状の把握や医療機関に問い合わせしやすい環境を構築する。

■「入退院支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・入院時の状態や退院後の対応が分からぬいため、退院後など関係機関が集まり、情報共有や利用者に合う支援方法の検討会など行う
- ・独居高齢者が退院してすぐは、自宅の生活環境が整っておらず、すぐに再入院してしまうケースがある。退院までに生活環境を整えておくための支援やベッドで寝ることができる状態や室内の衛生面への支援が必要。

■「急変時の対応」の連携で感じている困難さと解決策

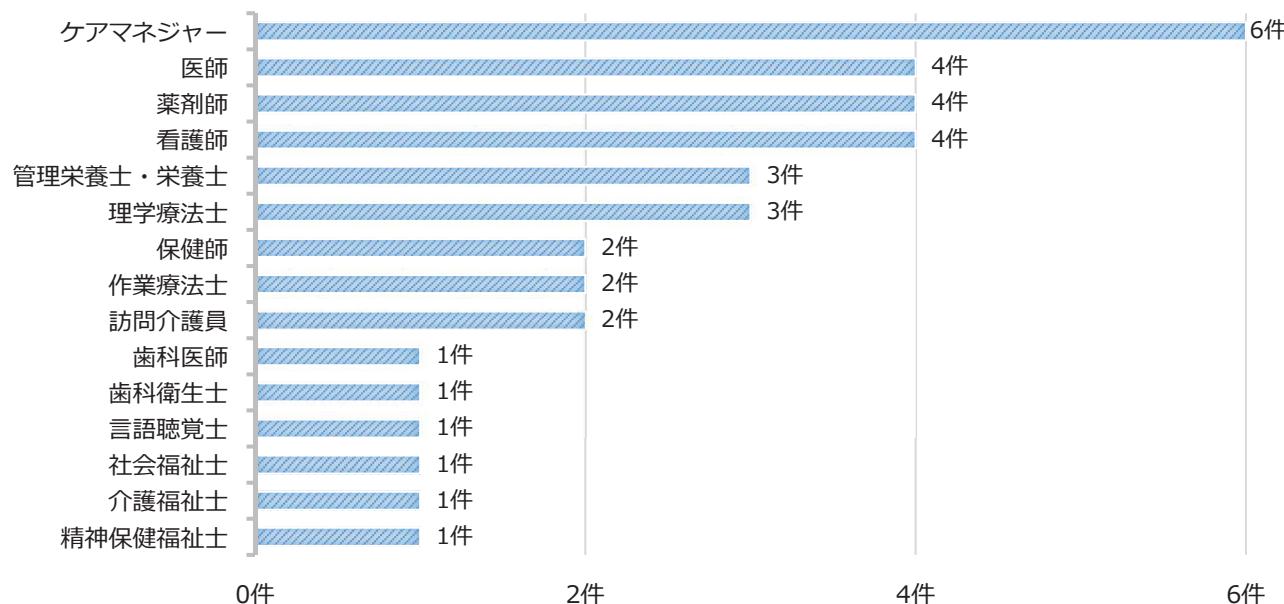
- ・休日の急変時の連携が取りにくい時がある。担当ケアマネへ繋げてもらえないこともあった。出勤してからと先延ばしにされた。担当者に連絡が取れない場合、具体的な指示を出す方がいることで対応を進められる。
- ・話ができるようであれば体調を聞く。ケアマネに連絡し、かかりつけ医に連絡し、指導を仰ぎ、救急車を呼び、家族にも連絡した。電話にてすぐに対応してもらっているため、すぐに連絡が取れるようにしておく、決めておく。
- ・訪問診療利用者は、連絡し状況報告する事が出来る。訪問診療利用者は、救急搬送を行う事になるが、救急車要請の判断が難しい。急変時に相談できる所があれば良い。
- ・意識はあるがやや重い病状の時に、訪問介護での病院受診付き添いが理想だと考えるが、人員不足もありケアマネが対応していることが多いため、人員の確保が必要。

■「看取り」の連携で感じている困難さと解決策

- ・利用者の情報共有や状態把握が難しいため、関係機関との情報共有。
- ・医療主導による介護事業所への指導やアドバイスがほしい。

■今後、より連携を深めていきたい職種

「ケアマネジャー」が6件と最も多く、次いで、「医師」「薬剤師」「看護師」が4件となっている。



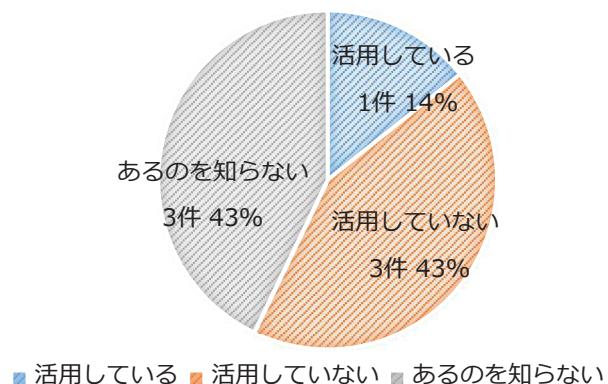
- ・医師.ケアマネジャー.訪問介護員：必要。
- ・医師.ケアマネジャー.看護師.薬剤師：医療的に管理が必要な利用者に対して、より連携を取る必要がある。
- ・全職種：多職種との連携を行うことで、利用者の情報を知り情報共有できる。アドバイスをもらいたい。同じ職種の事業所でも、取り組みや困難な事例など対策を知りたい。
- ・看護師.薬剤師.理学療法士.管理栄養士・栄養士.作業療法士.ケアマネジャー：在宅生活を支援するにあたり既に連携している職種でもあり、訪問介護事業所として利用者の状態把握や変化への対応について相談していきたい職種。

人吉球磨在宅医療介護連携推進事業のホームページ「だんだんあネット」について

■「だんだんあネット」の活用状況

だんだんあネットが「活用していない」「あるのを知らない」が86%と最も多く、次いで「活用している」が14%と、訪問介護事業所ではほとんど活用していないことが分かった。

活用していない理由としては、「更新されていない」「インターネットに馴染みがない」と回答している。

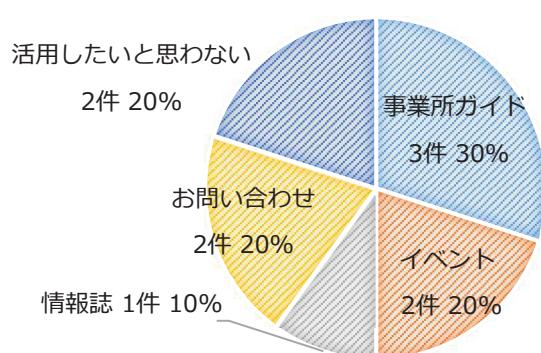


■活用しているページ



■ 事業所ガイド
■ 情報誌

■今後活用したいと思うページ



■ 事業所ガイド
■ イベント
■ 情報誌
■ お問い合わせ
■ 活用したいと思わない

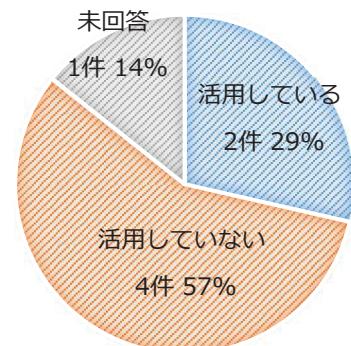
■載せてほしい情報

- ・現在と同様に事業所情報とイベント情報が載っているので、ありがたい。
- ・現在の情報で十分。

医療と介護の情報共有シートについて

■「医療と介護の情報共有シート」の活用状況

医療と介護の情報共有シートを「活用していない」が 62% と最も多く、次いで「活用している」が 25% と、訪問介護事業所ではほとんど活用していないことが分かった。



■ 活用している ■ 活用していない ■ 未回答

■シートを活用して良かった点

- ・色々な利用者の情報収集ができるてより深く理解できる。ケアマネもそれぞれで簡単な情報、詳しい情報と人によって違う。
- ・救急搬送時に必要な情報を救急隊に共有することができた。

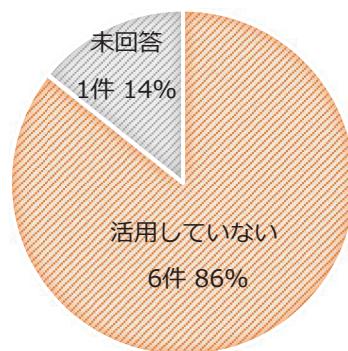
■シートを活用していない理由

- ・他の様式の書類を使用。(3)

医療と介護の連絡シートについて

■「医療と介護の連絡シート」の活用状況

医療と介護の連絡シートを「活用していない」が86%と最も多く、訪問介護事業所ではほとんど活用されていないことが分かった。



■シートを活用していない理由

- ・ケアマネとの連携で足りている。
- ・分からぬ。
- ・他の様式書類を使用している。
- ・知らなかつた。
- ・機会がない。

くまもとメディカルネットワークについて

■くまもとメディカルネットワークの活用状況

くまもとメディカルネットワークを「活用していない」が100%と、訪問介護事業所では全く活用していないことが分かった。



■くまもとメディカルネットワークを活用していない理由

- ・同職場内ケアマネ事業所が活用しており、必要時連携が取れるため、他事業からも必要時情報はもらっている。
- ・活用するまで行き届いていない。
- ・インターネットになじみがなく、活用方法がよく分からぬ。
- ・メディカルネットワークの事は知っているが、ケアマネからの情報があるため活用していない。

以前、訪問介護事業所にとって現時点で必要な物ではないという説明があり、ゆくゆくケアプランの共有などに活用できる時期がきたら周知することだった。

その他について

■くまもとメディカルネットワーク以外で活用している情報共有ツールの名称

- ・メディカルケアステーション

■後継者不足や人材不足に対する取り組みなど

- ・ハローワークなど人材募集媒体の利用。(2)
- ・研修等による従業者育成。
- ・資格保有者への声掛けや訪問介護に興味がある方への面談。
- ・人材が集まりやすい職場作り。
- ・定年退職後の再雇用。
- ・入社お祝い制度。
- ・人材定着のための定期面談。

■医療と介護の連携について、日頃感じていることなど

- ・訪看との関わりがある所は、迅速に対応ができている。訪看を利用していなくても居宅との連携にて対応支援が行えている。
- ・どの事業所もコロナと人材不足で疲弊している。連携まで考える余裕はない。
- ・訪問した際、体調不良事や服薬間違いをしていた利用者の対応が難しい。
- ・医療度が高い方の在宅生活が増えているため、訪問看護との連携は今後も重要になると考えている。訪問看護ステーションが充実しているので、とてもありがたい。